

## 教育改革全国キャンペーン中央集会 「子どもの権利を考えるフォーラム」

11月16日、文京学院大学において、毎日メディアカフェ主催「子どもの権利を考えるーみんなで考えよう！『自分らしさ』って何だろうフォーラム」が約300人参加のもと開催され、高教組から2人が参加しました。

タレント・声優・ブロガーである春名風花さんのトークセッション、10代の子どもたちのリレートーク、元日政連議員神本美恵子さん、NPO法人フリースペースたまりば理事長西野博之さんらによるパネルディスカッションと続きました。



子どもたちのリレートークでは、NPO法人「フリー・ザ・チルドレン・ジャパン」（18歳以下の子どもたちが『子どもの人権』のために主体的に国際協力活動している法人）で活動をしている子どもたちが、自分たちが抱えている問題「ブラック校則・不登校・親からの虐待・LGBT等」の問題を参加

者に向かって発信しました。

父親から虐待を受けていた子どもは、「当事者は恐怖から外に発信できず、発見されにくい。行政が強引に保護して欲しい。」と。また、校則や人権については、「ブラック校則がある、校則は基本的人権を守っているか？」「子どもの人権を理解して欲しく居住区の母子手帳に子どもの権利条約の記載を請願し記載になった。」など、子どもたちからいろいろなとりくみやメッセージが話されました。



子どもたちが生きていて良かったと思える社会をどう作っていくのか？そのためには、一人ひとりが変わらなければならない。大人が幸せでなければ子どもを幸せにできない。「生まれてきてくれてありがとう」と言える社会を作っていきましょうと参加者全員で確認しました。

## TOMO-KENってなあに？

「青年の感覚で、青年のニーズに合ったものを第一に」という考えを大切に、「友（仲間）に学ぶ」「共（一緒に）学ぶ」という意味をこめ名付けられたTOMO-KENが、10月5・6日に日本教育会館にて全国から220人（高教組2人）の青年教職員の参加で開催されました。

経験が少なく、まだまだわからないこともある青年教職員が、子どもたちとのかかわりや職場での課題を共有することで、気づき生まれ、その気づきをもとに議論を深めることで、それが実践へといかされていきます。青年どうしが、とことん語り合うことで、お互いを高め合うことにもつながります。また、校種や職種を超えて全国の仲間とめぐり合うことができるということもTOMO-KENの大きな魅力の1つです。



私は【平和・人権・環境・共生】の分科会に参加し、『共生社会における寄宿舎に求められるものと課題』について話し合ってきました。校種も職種も異なる8人で構成された分科会でしたが、初めて出会ったとは思えないくらい親身に考えてくれて、お互いの悩みに寄り添い合うなかで多くの気づきを得られた2日間でした。一緒に働いてみたい！と思える仲間が全国にいます。TOMO-KENは青年部のあいだし経験できないので、みなさんも35歳までに1度は参加してみてください。

齊藤理絵（盛岡となん支援分会）